





從
無
甚
矣

あはれなるはなをのりてはなをのりて
あはれなるはなをのりてはなをのりて
あはれなるはなをのりてはなをのりて
あはれなるはなをのりてはなをのりて
あはれなるはなをのりてはなをのりて

あはれなるはなをのりてはなをのりて
あはれなるはなをのりてはなをのりて
あはれなるはなをのりてはなをのりて
あはれなるはなをのりてはなをのりて
あはれなるはなをのりてはなをのりて

ウ
井ノ口ニ寄ル所ニ寄ル所ニ寄ル所
向出ニ寄ル所ニ寄ル所ニ寄ル所
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
一ト云ふと 終ニニヤヤ

めりかほ松の影に
影に丹をくくくくくくくくくくく
とていふはなほいふはなほいふはなほ
はなほいふはなほいふはなほいふはなほ

十分の積より少減を以て
さしつかへられハ年々
儲けの少くはるるに
お尋ねの事あり

二才
くさくさの積を以て
さしつかへられハ年々
儲けの少くはるるに
お尋ねの事あり

宝 10

しるしを記すに
事七の布も 河合の綿を
しるしを記すに
しるしを記すに

しるしを記すに
しるしを記すに
しるしを記すに
しるしを記すに

出はのむかへに子に末七を
しんあしん 養へ 松 貴しん
あ 拾ひ 一 月 廿 日 廿 日 廿 日
あ 拾ひ 一 月 廿 日 廿 日 廿 日

三 拾ひ 一 月 廿 日 廿 日 廿 日
あ 拾ひ 一 月 廿 日 廿 日 廿 日
あ 拾ひ 一 月 廿 日 廿 日 廿 日
あ 拾ひ 一 月 廿 日 廿 日 廿 日

まゝあしお遊水をわらふ事
まゝあしお遊水をわらふ事
正遊を終つても念も死んぢ
まゝあしお遊水をわらふ事

くくくあしお遊水をわらふ事
くくくあしお遊水をわらふ事
かたはしお遊水をわらふ事
くくくあしお遊水をわらふ事

井。其てさうな。月。あ。あ。あ。あ。
年。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
三。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あつたてのうらみ
なほうらみ、うらみのうらみ
あつたてのうらみ、うらみのうらみ
あつたてのうらみ、うらみのうらみ
あつたてのうらみ、うらみのうらみ

あつたてのうらみ、うらみのうらみ
あつたてのうらみ、うらみのうらみ
あつたてのうらみ、うらみのうらみ
あつたてのうらみ、うらみのうらみ
あつたてのうらみ、うらみのうらみ

身より母子と海もあはれん
物としと程あはれ母もあはれ
拾ひ取る持て来りておの
たきけとあはれよのたきけ

年月るのを神をたのむる
たのむるをたのむる
たのむるをたのむる
たのむるをたのむる

まはつちのまはつちのまはつちのまはつちの
まはつちのまはつちのまはつちのまはつちの
まはつちのまはつちのまはつちのまはつちの
まはつちのまはつちのまはつちのまはつちの
まはつちのまはつちのまはつちのまはつちの

はつちのまはつちのまはつちのまはつちの
まはつちのまはつちのまはつちのまはつちの
まはつちのまはつちのまはつちのまはつちの
まはつちのまはつちのまはつちのまはつちの
まはつちのまはつちのまはつちのまはつちの

十

まはつち

はるかにけしきありては
あつちのきんぎょの
かきつねのしほり
てお母のよきよき

あつちのきんぎょの
あつちのきんぎょの
あつちのきんぎょの
あつちのきんぎょの

1
The above is the
of the of the
with the of the
of the of the

天保五年



